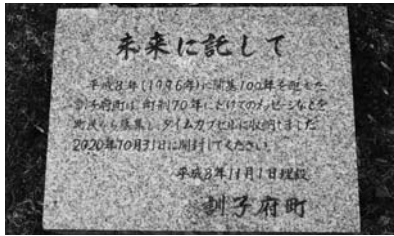


訓子府町は令和2年に

記念事業の検討へ

本町では、「分村・開町」から1世紀が経過する大きな節目ということから令和2年に記念事業を行う予定です。今後記念事業の内容の検討に入っていきますが、イベントとして確定しているのは、開基100年の平成8年11月1日に中央公園に埋設されたタイムカプセルの開封です。

このタイムカプセルには、当時の町予算書や公共施設のパンフレット、町民の方の手紙などが収納されています。埋設場所に石碑が設置され、そこに「2020年10月31日に開封してください」と刻まれています。



昭和26年に町制施行

明治の「開拓」、大正の「分村」、昭和の「町制施行」(昭和26年)と着実に発展し、平成8年には開拓から100年という大きな節目で「開基100年記念式典」などの記念行事を繰り広げました。

周年行事の位置付け

本町では、明治30年の入植を町の「開基」とし、また、町制施行も含め、それぞれ10年ごとに記念式典などで町の誕生を祝っています。一方「分村・開町」の「独立記念日」を祝う周年行事は、過去2回行われています。

まず昭和25年6月15日に訓子府小学校で「訓子府村開村30周年記念式典」が行われ、同17日までの3日間、祝賀行事が盛大に開催されました。

さらに昭和45年10月4日に「開町50周年、町制施行20年、共同利用模範牧場竣工記念式典」が訓子府中学校体育館で行われました。

町制施行し、70年の節目にも

昔の資料、写真などの情報をお知らせください

町総務課では、訓子府町の歴史的資料や写真、家族から聞いた「昔の話」などさまざまな情報を収集しています。

町制施行60周年の平成23年度には、貴重な歴史的資料を後世に残していくとし、「訓子府村史」の復刻版を発刊しました。

「続訓子府町史」を平成10年に発行してから、20年以上が経過し、近い将来に新たな町史を発刊する予定です。

町民の皆さんのご協力で、さまざまな情報をお寄せください。

例えば、

■大正9年の「分村」当時の街並みや生活風

景、農作業風景などの写真

■分村した喜びの声や祭りといったイベントなど、町の歴史を物語る家族から聞いた「昔の話」

■昭和26年の町制施行のときの商店のチラシや新聞記事など産業・教育・福祉・生活環境・自然などさまざまな分野に関するものです。

役場総務課広報広聴係にご連絡ください。資料をお借りするなどの対応について調整させていただきます。

□問合せ 総務課広報広聴係
(☎47-2112 役場2階窓口10番)

■問合せ 総務課 (☎47-2112 役場2階窓口10番)

「開町100周年」を迎えます



訓子府町は、大正9(1920)年に旧置戸村から分離独立し「訓子府村」として誕生しました。この分村を訓子府の「開町」とし、令和2年に100周年を迎えます。同時に町制施行70年の節目です。町では、今後記念事業について検討していきます。

開町の位置付け 大正9年に置戸から分村

明治30年に13戸の北光社移民団により、開拓の鉞が下ろされました。

開拓直後、訓子府は野付牛村(現北見市)に属し、大正4年には、野付牛村から分村した置戸村に属しました。この分村の直前に、役場の所在地を巡って、訓子府地区と置戸地区の住民による激しい綱引きが繰り広げられました。最終的に置戸市街地に役場が設けられ「置戸村」が成立したと、訓子府町史などに記されています。

大正9年5月5日に北海道庁が置戸村を分割し「二級町村訓子府村」を置く告示を行い、6月1日に訓子府村がスタートしました。苦難の開拓から23年が経過し、開拓者ら多くの住民の悲願が果たった年でもあります。

本町では、この分村・独立の日を「開町」と位置付けています。

当時の村勢は1,146戸、人口6,592人、予算総額は歳入歳出ともに3万7,246円でした。初代村長には、野付牛町の上席書記、山崎亮智が任命されました。



昭和38年ごろの市街地(左)と現在の市街地(右)と

